



リジェネラティブ・キッズ・キャンプ嬉野構想

—「Regenerative Kids Camp Ureshino」— Nature, Heart & English —

🌿 自然を通して学び、

🌐 異文化を体験し、

💚 地域と世界の両方に心を開く力を育てる、

“未来の教育モデル”そのものです。

1. 概要 (前提として、地元の協力を得た上で)

- ・本企画は、嬉野市春日地区の自然資源を活かし
子どもたちが 自然・英語・異文化交流 を通して学ぶ
体験型教育プログラムを構築するものです。
- ・放棄茶畑や、春日渓谷の課題と並行し、
国際的な学びと癒しの拠点として再生します。

目的

- ・子どもたちが自然の中で、英語の学びと命のつながりを体験する。
- ・外国人と共に過ごすことで、多文化への理解と自己表現を育む。
- ・渓谷や畑を「生きた教室」として活用し、健康と環境教育につなげる。

内容例

- ・ネイティブ・外国人スタッフによる英語キャンプ（春・夏開催）
- ・野外クッキング、自然観察、物作り
- ・“No Plastic Day” や “Tea Garden Reborn” などテーマ型プログラム
- ・親子参加・地域住民のサポート参加も可能

協力想定

- ・佐世保基地関係者（英語指導・文化交流）
- ・地元教育関係者・NPO・高校生・大学生

2. 背景

- ・春日渓谷は近年、整備が行われず通行止めが続いている。
→ 地域住民・観光客の立ち入りが減少し、周辺経済にも影響。
- ・一方で、地元に住む外国人、佐世保基地などに所属する外国人や家族との交流の場が求められています。
- ・英語教育・多文化体験・自然体験教育のニーズが全国的に拡大しています。

3. 目的

- ・春日地区を中心に、子どもと外国人が共に学ぶ体験教育の場をつくる。

- ・英語・自然・地域文化を融合させた“嬉野発の教育観光モデル”を確立する。
 - ・地域住民、外国人、行政が連携し、国際的な里山コミュニティを形成する。
- ※地域住民の皆様の協力を得られることを前提。もし得られない場合、他の地域に相談する。

4. プログラム内容（例）

分野	内容
英語×自然体験	ネイティブ・外国人講師とともに英語で自然を学ぶ（昆虫観察、野草採取など）
エコ・アクティビティ	川遊び、野外クッキング、クラフト体験、環境保全ワークショップ
文化交流	外国人家庭の料理紹介、音楽・アート体験、国際ピクニックデー
環境教育	“No Plastic Day”や“森と水をまもる日”などをテーマにした一日プログラム
親子プラン	保護者・地域住民も一緒に参加できるサポート型キャンプ

★地元の人の話では、夏休みには、子供達を連れて春日渓谷の上流へ行き、竹を割り、ソーメン流しを川の水でやっていたとのこと。すいかを冷たく冷やして、食べたり、水遊びができるところがあります。

5. 連携・運営体制（想定）

主催／企画運営：嬉野リジェネラティブ・ヴィレッジ推進会（仮称）

協力：佐世保基地関係者、地元教育関係者、NPO法人、行政、

場所：春日渓谷・放棄茶畠再生エリア（予定）

対象：小中学生・高校生・親子・外国人家族など

6. 期待される効果

- ・子どもたちの英語力・国際感覚・環境意識の向上
- ・外国人との交流を通じた地域の多文化体験の促進（「多文化共生」は政治色が強いので、子供や親子が主役なので、多文化体験とする）
- ・渓谷の再生と観光誘致の拡大
- ・地域農業・自然環境・教育が一体となった新しい地方創生モデルの確立

7. 今後の展望

- ・通行止め解除後の春日渓谷整備との連動

- ・季節ごとの開催（春・夏・秋）と、将来的な常設スクール化
- ・嬉野温泉エリア・市街地との連携による宿泊観光モデルへの発展

8. 地域参加型モデル — “みんなでつくるキャンプ”

このキャンプは、地域の人々が***“教える人”ではなく、“共に生きる人”***として関わることを目指します。

子どもたちと外国人、そして地元の大人たちが一緒に笑い、学び、働くことで、地域の温かさを再発見します。

地元参加のアイデア集

① おじいちゃん・おばあちゃんの知恵教室

地元の高齢者が講師になり、「竹細工」「草木染め」「昔遊び」「野菜の植え方」などを子どもたちに教える。

→ “English meets Grandma’s wisdom!” として英語キャンプ内の人気コーナーに。

② 農家さんとのフィールド体験

放棄茶畠の再生・収穫体験を、地元農家がガイド。

外国人と一緒に作業しながら交流（お互い英語・日本語を教え合うスタイル）。

③ 地元ママのキッチンチーム

お弁当・おやつ・地元野菜を使った料理を、地域の母たちが担当。

外国人と一緒に「食文化交換デー」を開催。

④ まちの若者によるサポートチーム

地域の若者グループが、キャンプ運営・SNS発信・通訳をサポート。→ 若者の「地域での役割」が生まれる。

⑤ ボランティア里山クラブ

渓谷整備・遊歩道づくり・植樹などを、地元住民+外国人ボランティアで行う。

→ “We build our forest together” を合言葉に。渓流釣りの企画など。

期待される地域効果

- ・地元の高齢者・農家・主婦・若者が、それぞれの得意分野で関わる。
- ・「教える/教えられる」を超えた、共に育ち合う地域コミュニティが形成される。
- ・外国人・観光客が地域の魅力を直接体験し、SNSなどで発信することで嬉野の国際的認知が向上。
- ・使われなくなった土地・施設が“生きた教育の場”に変わる。

メッセージ

“地域の人が主役になる国際キャンプ。”

英語が話せなくても大丈夫。

大切なのは、自然と人を慈しむ心。そして笑顔😊

9. 地元高校との連携 — “高校生が地域の未来を案内する”

嬉野市内の高校にある「観光科」との協働は、

このプロジェクトの成長を大きく後押しする力になります。

高校生たちは“学びの実践者”としてキャンプの企画・運営・通訳・観光案内などに参加し、地域と世界をつなぐアンバサダー（大使）の役割を担います。

🎓 協働アイデア

活動内容と詳細

① 英語キャンプの運営補助

生徒たちが「キャンプアシスタント」として、受付・案内・活動サポートに参加。実践的な観光英語・ホスピタリティを学ぶ。

|

② 英語×観光プレゼン発表

英語キャンプの参加者（子ども・外国人）に向けて、自分たちのまちの魅力を英語で紹介。

→ “[My Ureshino Tour](#)” プログラムとして実施。

③ 高校生によるプロモーション制作

学校の授業で映像・パンフレット・SNS発信などを制作。キャンプを通じて地域PR素材を作る。

|

④ 国際交流アシスタント

外国人ゲストと子どもたちの通訳・サポート役を担当し、異文化理解力を高める。

⑤ 地域観光ルートづくり

春日渓谷～温泉街をつなぐ観光ルートを、高校生の視点で再デザイン。キャンプ後に一般観光客にも展開。

🌿 効果と意義

- ・ 高校生が地域づくりの中心に立つことで、若者の地元定着・誇りの醸成につながる。
- ・ 学校・地域・外国人が一体化した“教育観光モデル”が生まれる。
- ・ 体験を通じて、英語・観光・地域貢献の三分野を横断的に学べる実践教育となる。
- ・ 卒業後も地域リーダー・観光人材として活動する若者を育成できる。

💬 メッセージ

“地域を学び、世界と話す高校生へ。”

[嬉野から始まる、新しい観光教育のかたち。](#)

